

次世代につなぐ世界基準の本当によい家

電気に頼らなくても、快適な住まいづくり

PASSIVESTYLE 株式会社

Tel.099-800-4579

鹿児島県鹿児島市吉野3-49-13

<https://passive-style.com/>



冷暖房を使用しなくても
一年中快適に



私たちが当たり前に暮らしている日本の住宅の快適性は、世界最低レベルだという。日本では、住宅の快適性を設備に頼ることが「最先端」とされる傾向がある。高性能なエアコンや暖房設備で快適な空間づくりを目指すため、建物自体の断熱性や気密性が軽視されがちだ。間取りや工法も家事動線の少なさや子育てのしやすさなど生活の利便性を優先することが多いため、断熱性や気密性といった基本的な快適性能が二の次となる。住みやすさや使い勝手は確保されるものの、夏は暑く冬は寒い、住む人の健康や環境に悪影響を与える住宅となってしまうという。

鹿児島県を拠点に自然の恩恵を最大限に活かした「世界基準のいい家づくり」を提供している『PASSIVE STYLE 株式会社』。住宅先進国で採用されている高断熱・高气密に関する高い基準を採用し、太陽の光や熱、風などの自然エネルギーを活用するパッシブデザインを取り入れた住宅づくりを行う。

鹿児島県産の良質な木材などの自然素材を使用し、断熱材をぎっしり敷き詰めることで、建築物の躯体に悪影響を及ぼす結露を防ぐ。建物の躯体を劣化させるカビが発生しにくいいため、定期的にメンテナンスすることで20年以上経っても美しい状態をキープできる。



代表 馬場龍仁さん

ドイツ研修をきっかけに断熱性や気密性に優れた「世界基準のいい家づくり」を行うために2019年に会社を設立した。地産地消やスーパーウォール工法、パッシブデザインなどを取り入れた快適な家づくりを提供。



「世界基準のいい家を形に」
漫画でも紹介中。

@passive__style



自然エネルギーと自然素材の活用



事務所&モデルハウス。



世界の住宅寿命

イギリス	141年
アメリカ	103年
フランス	95年
ドイツ	90年
日本	25年

日本の新築の住宅性能は、
世界最低レベル。

代表の馬場龍仁さんは、ドイツ研修で出会ったパッシブハウスに衝撃を受けたという。
ペアガラスやアルミサッシ、現場吹き抜けの断熱材、第三種換気システムなど日本で当たり前に使われているものが、海外では築年数の古い建物ですらも使用を禁じられていることを知った。日本の住宅が快適性能の面で世界的に遅れていることに危機感を抱き、ドイツで得た知識を元に世代を超えて、健康で快適に過ごせる家を提供したいと自然エネルギーを活用したパッシブデザインを採用した。
2019年の設立以降、海外基準の高品質な自然素材、パッシブ設計などを採用した細部までこだわった施工を手掛けている。

「HEAT20 G3」を採用した設計や合板など一体化したパネルにウレタンフォームを充填し、まるで魔法瓶のように家全体を包み込む「スーパーウォール工法」で優れた高断熱・高气密の住宅を実現。さらに、トリプルガラスや樹脂サッシを採用し、窓からの温度変化を最小限に抑えた。

また外壁材には、「Sto（シュトール）」や「マシユマロタツチ」といった自然素材を取り入れ、建物自体の性能を良くすることで電気に頼らなくても快適な住まいが実現する。ライフスタイルや家族構成の変化などに合わせてリフォームや修繕を繰り返しながら、世代を超えて愛され続ける「本当に良い家づくり」をサポートする。